

「夜須高原長期チャレンジキャンプ」

～ 海・川・山の自然を体感！自分にチャレンジ！ ～

- 1 趣 旨 子どもたちを、SNS やゲーム、テレビ等のメディアに依存した生活から離し、カヌー、ヨット体験、登山、野外炊飯、テント泊など様々な自然体験活動を通して、人間関係能力や自己肯定感を高めていくことをねらいとする。
- 2 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立夜須高原青少年自然の家
- 3 後 援 福岡県教育委員会 福岡市教育委員会 宗像市教育委員会 福津市教育委員会
- 4 協 力 福岡県立少年自然の家「玄海の家」、勝浦浜海洋スポーツ
- 4 期 間 平成30年8月12日（日）～8月19日（日） 7泊8日
- 5 場 所 福岡県立少年自然の家「玄海の家」 勝浦浜海洋スポーツセンター
国立夜須高原青少年自然の家 昭和の森キャンプ場
- 6 対 象 小学校5、6年生 中学校1～3年生 計36名
- 7 参加者 44名（小5：16名、小6：14名、中1：3名、中2：1名、中3：2名、
学生ボランティア：8名）
- 8 日 程
 - 8月12日～14日【会場】福岡県立少年自然の家「玄海の家」
 - 12日（日）開会式（趣旨説明等）、人間関係作りレクリエーション、テント設営、
野外調理（カレーライス）
 - 13日（月）野外調理（朝食）、世界遺産巡りサイクリング、大島散策（約10km自
転車で移動）、野外調理（焼きそばご飯）
 - 14日（火）野外調理（朝食）勝浦浜海洋スポーツセンターにてヨット、カヌー、
ロープワーク体験、「玄海の家」にて海水浴、野外調理（そうめん
等）
 - 8月15日～19日【会場】国立夜須高原青少年自然の家
 - 15日（水）バスで移動して新原・奴山古墳群の見学、国立夜須高原青少年自然の家へ
バス移動、館内ウォークラリー、今後の活動説明
 - 16日（木）夜須高原青少年自然の家 → 大根地山登山 → 山頂 → 本道寺
公民館（約11km 徒歩移動）、バスで夜須高原青少年自然の家へ戻って
宿泊
 - 17日（金）バスで本道寺公民館まで移動 → 宝満山登山 → 山頂
→ 河原谷 → 昭和の森キャンプ場（約7.3km 徒歩移動）、野外調
理（焼きそばパン）、昭和の森キャンプ場バンガロー宿泊
 - 18日（土）昭和の森キャンプ場 → 四王寺県民の森 → 太宰府政庁跡 → 太
宰府天満宮参拝（約13.7km 徒歩移動）→ 夜須高原青少年自然の家へ
バス移動、野外調理（BBQ）、全日程のふりかえり、体験スピーチ
会原稿づくり
 - 19日（日）体験スピーチ会準備、体験スピーチ発表会、閉会式

9 活動の実際



【テント設営】



【世界遺産巡りサイクリングと大島散策】



【野外炊飯やきそば】



【カヌー、ヨット体験】



【大根地山登山】



【宝満山登山、昭和の森キャンプ場】



【昭和の森キャンプ場、太宰府天満宮】

【体験スピーチ会】

10 感想（体験スピーチ原稿より）

- 大島での世界遺産巡りでは、山道のような遊歩道を歩いて、頂上まで登りました。場所から見えた絶景は、思い出に残っています。
- 私の班はトラブルが多くて、いやな気持ちになってしまう人もいましたが、話し合いで解決策を見つけ、仲を深めることができました。これからも人とのかかわり方を大切にしたいと思いました。
- この一週間、たくさんの人が自分たちのことを支えてくれました。いつもはできない体験をさせてくれました。いろいろな体験をすることで自分に自信が持てました。これからもずっとチャレンジという言葉大切に、いろいろなことを体験したいと思いました。
- このキャンプで自分の変わったところが二つあります。一つ目は、周りのことを見て行動できるようになったことです。周りをよく見て、自分が今何をすべきか、何からすればいいのかを考えられるようになりました。二つ目は、周りの人の気持ちを考え、自分が今その人にどう接すればいいかを自然に考えられるようになったことです。

11 成果

- 福岡県立少年自然の家「玄海の家」に宿泊しての活動（世界遺産巡りサイクリング、海水浴、勝浦浜海洋スポーツセンターでのカヌーやヨット体験）と国立夜須高原青少年自然の家に宿泊しての活動（登山活動Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ合計で約32km歩く）について、「自然を体感する」「自分自身に挑戦する」という二つのキーワードを使って開会式で説明した。そのため、参加者は活動のつながりを意識し、全日程の見通しを持って、毎日の活動に取り組むことができた。
- 開会式後に人間関係作りレクリエーションやテント設営を実施し、日程の序盤にテント泊（3泊4日）、野外調理などのグループ活動を多く取り入れた。そのため、協力するよさや大切さを日程の前半に学ぶことができた。後半の困難な条件での活動（照明がない場所でのバンガロー泊や野外調理）や体力的に厳しくなる登山活動時には、作業を分担したり協力したりしてスムーズに活動したり、グループで声を掛けて励ましあったりする場面が多く見られた。
- 学生ボランティアと事前ミーティングを行い、参加者とのかかわり方や注意する点を確認した。また、毎晩参加者の様子について確認したり、参加者への言葉掛けや指導の仕方について話し合ったりする機会を設けたので、学生ボランティアスタッフが参加者に適切に対応することができるようになっていった。後半になると、ボランティアが声掛けをしなくても、参加者同士で話し合ったり役割を分担したり、上学年の参加者がよい言葉掛けをしたり、よい関わり方をしたりする場面が多く見られるようになった。

12 課題

- 安全面の確認や熱中症対策で数回下見を行い、水分や時間配分等十分に検討して事業を実施したが、初日から3日目までが非常に気温が高く、この期間に体調を崩す参加者や学生ボランティアが数名いた。大事には至らなかったが、来年度事業を実施する際にはさらに検討する必要がある。